第３回 静岡県観光基本計画策定懇話会 議事録

日　時	令和４年２月７日（月）
場　所	静岡県庁別館９階特別第一会議室（WEB と併用での開催）
出席者	【委 員】(50 音順、敬称略) 飯倉 清太、 大石　人士、 加藤　久美、加藤　賢二、高山　靖子、トニー　エバレット、三井　いくみ、村山　慶輔、望月　宏明、八木　健祥 【事務局】 スポーツ・文化観光部理事（観光担当）　西宮　寿和 観光交流局長 都築　直哉、観光政策課長　川口　茂則 観光振興課長 山田　司、観光政策課企画班長 笹松 光普（司会）

≪次期「静岡県観光基本計画」の概要説明≫

川口観光政策課長から、事務局説明資料に基づき、次期「静岡県観光基本計画」の事務局案について説明した。

≪各委員からの意見等≫

事務局からの説明に対して、各委員から、以下の内容の御意見があった。

【飯倉清太　委員】

計画ができて終わりではなく、計画ができたことによるスタートを切っていただきたい。

特に地域を支える観光人材の育成で、魅力ある静岡を教育の現場に入れていくことや、大学生に対して専門的なものを学んでもらうところがあるが、是非現実化していただきたい。静岡の子供たちが静岡県のファンになってくれることが、口コミとして発信できる一番の要素だと思うので、その辺りの強化をお願いしたい。

【大石人士　委員】

全体的によくまとめられているので、これで良いと思う。

目標値の設定で、数字的なところはコロナ禍もあり想定できないところもあるので、この機会に質の充実をしっかり進めていただくことが大事である。

グリーンツーリズムは、海や河川なども重要になってくるので、緑だけでなく水という意味で青、ブルーツーリズムも静岡県らしいテーマ性があると思う。

また、災害の記載箇所に、風評被害についても一言入れていただきたい。昨年の伊豆山の土石流にしても、実際に伊豆山と聞いただけで、伊豆全体のように思われたので、風評被害を絶っていけるような情報発信が必要と思っている。

働き方改革がかなり遅れている業界だと思うので、観光産業を担う人たちのこれからの幸せということを考えて、今後施策を進めていただきたい。

いずれにしても、観光産業の方々が元気になってもらうことが大事である。その上で質の良いサービスを提供していただき、それを利用者、特に県民皆で享受するような循環を生み出していくことができれば良いと思う。

【加藤久美　委員】
膨大で多様な項目を端的にまとめていただいたという風に拝見している。
今後の運用で、2025年というと2030年まであと残り５年というところで、SDGsの考え方もその頃には、今とは違ってくると思っている。
ビジョンとして、心の豊かさを掲げたところは、本当に素晴らしいことである。幸せとか豊かさは、測ることが難しいので避けられがちだが、静岡県において、モニターの仕方や測り方についてお示しいただければと思う。パブリックコメントの中で、「サステナブルが出てくるのはいいが、事業者が稼ぐことも大事」というコメントがあったが、今後はどう利益を得ていくかということが大事であり、観光はそれを実現できることを是非見せていただければと思う。
また、事業者やＤＭＯの中で、サステナビリティを基盤においての人材はまだまだ大変足りないと感じている。必要とされるのは、地域の方が地域を知ることであったり、観光はこんなことができるということを知るというような教育を、人材育成の中に盛り込んでいただければいいのかと思う。
色々な形で努力をされたところを表彰制度などを通じ、良いところをどんどん認めていき、それを発信していくというようなところも、ぜひ力を入れていただきたい。

【加藤賢二　委員】
観光基本計画は、よくできてきたということで感謝している。ただ、現実にはオミクロンの中で、我々を取り巻くホテル旅館業の状況は、今までにない悪い環境になってるのは事実である。
雇用調整や政府からも色々な支援をいただいているが、コロナの中でも格差があり、若い人が良い産業に移ってしまっている。雇用を進めるための経費がかかることや社員寮の整備が進んでいないことなど、人材確保に一番苦労している。
インバウンドは今は止まっているが、落ち着いたら全世界が奪い合う。ＤＭＯの美しい伊豆創造センターも民間の旅行代理店の経験者が就任し、台湾を中心に活動を進めていく。特化した能力のある人材を活用し、施策を進めていただきたい。
駿河湾フェリーも大変苦戦しているが、コロナ禍での対策が少しずつ成果を出しているので、県としてもぜひ応援をしていただきたい。

【高山靖子　委員】
質の充実や心の豊かさに着目されたことは、大変すばらしいと感じているが、「美」というキーワードが大切である。観光に来られる方は、色々な意味で美しさをきっかけにして来られて、満足されて、そして人に伝えていくと思う。
スローシティを訪れると、それほどお金がかかっていない取組内容でも、市民一人一人の美意識が高いので、大変美しいものが多い。我々も美を意識した教育や取組がもっとあっても良いと思う。観光地の取組も、こちらの思いが全面に出てしまい、訪れる人の思いにあまり気を配られていないものもたくさんある。我々自身が美を鍛えていくことで、そこにお金をかけるにしてもそれは仕方がないと皆で理解できるような取組ができたらいいと思った。

【トニーエバレット　委員】
宿泊業飲食サービス業は、産業別離職率が極めて高い。これは全国的な平均と思うが、静岡県も例外ではない。
これに関しては最低賃金がかなり影響していると思う。観光業界はアルバイト、パート、フリーランスといった交渉力の弱い労働者の比率がおそらく一番高い産業であるため、賃金の引き上げを検討いただければありがたいと思う。
持続可能なモデル県になることは、すごく良い発想であると思う。観光業界にとって、一番簡単で効果的な第一歩となるのは、紙使用の削減と思う。県内の事業者やDMOのチラシ、パンフレットが多すぎる。もう既にDXになっているので、デジタル版があった方がありがたいのが事実である。事業者にとってもコスト削減につながると思う。
県庁の会議についても印刷物が多い。県庁全体の紙の方針が革命的に変わると、観光業界や事業者に良い事例になると思うので、紙版をなくすことが可能であればお願いしたい。

【三井いくみ　委員】
ワードを入れていただきたい箇所が３箇所ある。
１つ目は、「本県の魅力を活用した観光商品企画造成支援」について、稼ぐことがキーワードになっているので、「観光商品の開発・販売を促進する」と「販売」を追加いただきたい。同じく「持続可能な観光モデル事業の実施」のところも「開発販売支援」と売ることを意識付けしていただきたい。
２つ目は、「周囲の景観と調和した施設整備」について、箱物は作ったときは賑わうが何年後かに廃れていってしまうということが、今までの中ではあったと思う。本文で、ものづかい（ソフト施策）を合わせた視点と書いていただいていることはすごく大きいが、「完成後の運用や利活用も踏まえた整備」という文言をいれていただくとありがたい。
最後に、二次交通の充実のところで、サステナビリティや持続可能を大きくうたっているので、意識付けという意味で「環境負荷の少ない新たな移動手段を新たに進める」というように文字で示していただけるとありがたい。

【村山慶輔　委員】
今回の基本計画は、サステナビリティにフォーカスを置いて、良い形でまとめていただいていると感じている。
コメントとしては３点あり、１つ目は、ターゲットと情報発信。提供するコンテンツとターゲットは連動してくるが、今回の計画を実現していくためにはそのターゲットに対して価値を届けていくことが非常に大切であり、ベースになると思う。ＴＳＪとの連携を進める中でも、より明確にしていくことが大切と考えている。
２つ目に関しては、事例。例えば、DMO単位の事例、比較的大きめな企業の事例、中小企業の事例、或いは宿泊の事例、体験の事例、おみやげの事例といった等身大の事例が一番事業者の背中を押すと思っている。2025年に向けて取組を進めていく中で、良い事例をどんどん拾っていき、その方々に発信の場を提供する。そのような循環を築いていけると良いのではないだろうか。
最後３つ目は、観光業が魅力的であるということを改めて発信していくことが大切だと思う。観光に関連する基本計画ではあるが、対外的に観光業以外の

方や住民の方にも伝えていき、観光業は価値があり、魅力的であることを理解いただくことが大切である。観光貢献度の可視化、観光はいかに価値があるかということを対外的に発信するフレームや場を用意いただけると、持続可能な観光により近づけると思う。

【望月宏明　委員】

４年間の目指す方向を示していただいたことに関して、よく整理されてると思う。今後、具体的な事業を是非とも推進してもらいたい。

観光業界が疲弊している中、雇用については大きな問題だという認識を持っている。観光業界は大きな雇用を担っており、働くところがなければなかなか移住定住も進まないという現実がある。色々な部門の人たちが協力や支援をしていると思うが、どの場面で自分が関わるのか、どんな関わりができるのかを見えるような形の中で、人材育成をしていただけるとありがたいと思う。具体的な施策を推進するときに意見を聞きながら続けていただきたい。

ＭＩＣＥについて、国際会議や全国大会等々様々あるが、人脈など誘致してくるだけの力を持った人が当然必要になってくると思う。そういう中で、具体的にどのようなことを行っていくのかは興味があるところである。

【八木健祥　委員】

観光人材について、県内の３つの国公立大学と、静岡県庁や各市町とそれぞれ連携協定を結んで、地域の観光振興を推進してきている。そうしたところ、県立大学の観光コースに入りたいという志願者が少しずつ増えてきており、静岡県内の観光の人材育成に向けた取組は順調にスタートが切れたと思っている。

素晴らしい密度の濃い計画を作ったので、計画が計画で終わらないためにも、学生を含めた静岡県民の末端まで届けていき、認知してもらうことが大事である。

一方、賀茂地域の中高校生に伊豆半島ジオパークに行ったことがあるかというアンケートをとったところ、大半の生徒は行ったことがなかったり、知らなかったりする。例えば、教育委員会と連携して総合的な学習の時間を活用して、中高校生に地域を知るような学習を入れていくなどしなければならない。地元の人たちが地域の観光資源について良いと思わないのに、外から見には来ないと思う。心の豊かさを満たす観光資源が静岡県には色々あると思っている。それをさらに情報発信や色々な形で強調していくことは、基本理念にある、観光地域づくりによる心の豊かさの実現に繋がってくる。そのためにも、自分の地域にあるものをもっと知り、誇り高く皆に意識を持ってもらうような教育と実践が必要かと思う。

≪意見交換≫

【加藤賢二　委員】

県民割、元気旅をやる時は、使い勝手の良さや短期的効果が出るよう、旅行代理店の支店長クラスと一緒に検討していただきたい。

また先ほど、賃金の話がでたが、インバンドがない中、付加価値を高めるようにしなければならない。単価が高い首都圏、愛知エリアを中心に販売促進をできることが一番だと思っている。

【三井いくみ　委員】
　人口が減っていく一方で、良い人材を確保していくことは、観光だけではなく、静岡県西部だと製造業でも課題であり、中小企業は募集かけても全然来ないという状況になっている。そこで、浜松中心に、経済界や行政等と連携し、「浜松外国人材定着サポート」という組織を作り、製造業を中心に留学している外国人と企業とのマッチングを行っている。社会に入ってから１年間は、孤独を感じ、日本社会のカルチャーショックを受けるので、そこの部分をメンバーとして寄り添いながら、日本の社会で生活していけるようになるところまでサポートする。
　観光業界で働きたいという人も増えてきている。静岡県の観光業界で就職したらすごく人生楽しくなるといったイメージができると良いと思う。

【飯倉清太　委員】
　伊豆市では、シングルマザーの方が、旅館業、もしくは福祉関連の仕事に、引越しをして就職した場合、引越し代金や24ヶ月分の家賃補助を支援するという施策を行っている。他でも同じような政策をしているところがあるので、良い結果が出ている政策を静岡県も真似していくべきだと思う。
　ただ消費するだけではなく、何か社会を良くするために消費をするというような行動に移ってきている部分もあるので、SDGsを打ち出すのであれば、もう一つその先の研究やデータを取るような仕掛けも今後していかなければならないと思っている。

【村山慶輔　委員】
　人材について一つ事例を紹介したい。付加価値を上げていく中で、ある程度経験者にサポートいただくというやり方もあると思う。和歌山県の白浜の事例として、首都圏の30代から50代の人に「コロナ禍で、地方で働きたくなりましたか」というアンケートをとったところ、地方で働きたい方は大体４割くらいいた。その上で、「月に１回から３回程度、地方での副業に興味がありますか」と質問すると６割を超える方が興味があると回答した。実際、和歌山県の旅館で、月給約３万円で企画的な業務に手伝ってもらえませんかと募集したところ、30名以上の応募があった。
　付加価値を上げていくところも、外からの人材の意見を取り入れる仕組みを入れていくことによって、比較的単価を抑えつつも、最前線のマーケティングのノウハウを学ぶことができる。多様な働き方も増えているので、今後の取組の選択肢として良いと思った。

≪総括≫
【八木健祥　委員】
　最初に話をした通り、今回が最後の懇話会になる。
　委員の皆様のご協力により、円滑に議事を進行することができ、本当に感謝している。
　なお、本日、委員の皆様からいただいたご意見の反映等、今後の計画の策定にあたっての事務局との調整は、会長である私に一任いただいてもよろしいか。
　（各委員了承）
　事務局と調整をさせていただき、皆様のご意見を可能な限り反映させるよう

にしていきたい。
　この９月から、約半年間、内容のつまった資料、議論ができたということはご出席いただいている各委員の皆様のご理解とご協力の賜物だと思っている。
　この計画が今後の静岡県の観光振興に有効に機能していくためには、ここで盛り込まれた事項が、いかに現場に浸透し、実際の活動に結びつけていけるかというところがポイントになる。
　今回の計画がより実効性を高めていくためには、現場の観光事業者のみならず、地域住民に至るまで、この計画の趣旨を理解していただき、それぞれが観光振興の担い手として、これから４年間ご協力いただくということが大事である。
　地域住民が誇りと思わない観光資源に地域外の人々が来訪する可能性は低い。今回の観光計画の策定という機会に、更なる静岡県の観光資源の磨き上げを皆と一緒に実施していくことが、この計画の成果として、４年後に大きな果実を実らせることになると思う。